

「愛知の戦国武将―織田信長展―」展示資料目録

書名	著者（生没年）	刊行年	巻数等	内容
しんちょうき 信長記	おおたぎゅういち 太田牛一（1527-1610？）	昭和50年（1975）	全15巻	信長の京都上洛から本能寺の変までを、信長の家臣太田牛一が記述した資料。小瀬甫庵の書いた『信長記』と区別するため、一般的には『信長公記』と呼ばれる。成立年は慶長5年（1600）頃で、本書は岡山大学図書館が所蔵する池田家文庫本の複製である。原本は全15巻の内第12巻を除く14巻が牛一の自筆で、国指定重要文化財になっている。
おだのぶながい 織田信長譜	はやしらざん 林羅山（1583-1657）	明暦4年（1658）	1冊	江戸幕府の命により、儒学者の林羅山が編さんしたもの。織田氏の系図と、徳川家康を軸に書かれた信長の一生が、漢文で記述されている。斎藤道三との会見の際、信長は異様な姿をして、朱槍500本、弓と鉄砲各500挺を持った家来を従えて参上し、会見の時は正装に改め現われて驚かせ、道三に「自分の子孫は、いつか信長の家来になるだろう」と嘆かせた有名な逸話などが書かれている。この系図では平清盛を始祖としているが、実際には織田氏の先祖は藤原氏というのが正しいようである。成立は寛永18年（1641）。本書は明暦4年（1658）に荒木四郎左衛門が刊行した木版刷の和装本である。
しんべん おけはざまかつせんき 新編桶狭間合戦記	たみやあつてる 田宮篤輝（1808-1871）	明治期	1冊	永禄3年（1560）に織田信長が今川義元を破った、桶狭間の戦の概要を記した合戦記。桶狭間で戦うに至る過程や、両軍の家臣名等が詳細に記述されている。著者は尾張藩士田宮篤輝で、山澄英竜の『桶狭間合戦記』を元にして、様々な文献の説と自分の考察を加えたものである。合戦の前夜に酒宴を行い「人間五十年、下天のうちを比べれば、夢幻の如くなり…」と幸若舞の敦盛を信長が舞う有名な場面などが、いくつかの説を比較しながら論じられている。成立は弘化3年（1846）で、本書は明治期の写本。
えいけつ さんごくしてん 英傑三国誌伝	秋草庵（生没年不明）、梅窓園（うたがわさだよし） （歌川貞芳）（生没年不明）	江戸後期頃	1冊	戦国時代の武将を、絵と逸話で描いた武勇伝。信長を始めとして、明智光秀・柴田勝家など戦国武将の姿が多色刷で描かれている。成立は嘉永3年（1850）で、刊行年は不明。織田信長が堺の妙国寺にあった大きな蘇鉄を安土城に移すと、蘇鉄が「帰りたい」と毎夜泣いたため、元通り妙国寺に戻したという逸話等が描かれている。
ほんのうじやきうちの ず 本能寺焼討之図	のぶかず 延一（1872 - 1944）	明治期	1枚	本能寺の変を題材にした明治期の錦絵。敵味方入り乱れる戦闘の中、右端に織田信長、中央には信長に槍を向ける明智光秀の家臣安田作兵衛、図の左に森蘭丸の姿が描かれている。錦絵とは、18世紀半ばから作られるようになった多色刷の浮世絵の木版画のことである。「錦のように美しい絵」であることから、この名前がある。時代を経て技術的改良を重ね、幕末には数十色もの色版を用いる極彩色のものも現われた。
おだ かずさのすけ のぶなが たいへいきえ 小田上総介信長（太平記英 勇伝の中の一）	さんさんてい ありんど 山々亭有人（1832-1902）、 うたがわ いっけいさい よしいく 歌川（一恵斎）芳幾（1833- 1904）	幕末 - 明治期	1枚	『太平記英勇伝』の中の一で、信長を描いた錦絵。舞を舞う信長の姿に、信長について簡単な説明が付されている。『太平記英勇伝』と付いているのは、江戸時代、庶民の間で戦国時代の武将を書くことが禁じられていたため、『太平記』の南北朝時代の人物になぞらえた慣習によっている。「織田」が「小田」に変えられているのも、そのためと思われる。

はいでん がくめん のぶながこう こうしん 拝殿額面信長公功臣三十六 さんじゅうろくめい しょうぞう 名肖像	いしだゆうねん 石田有年（1845-1916）	明治28年（1895）	1冊	柴田勝家・森蘭丸など、信長の家臣36名の肖像と逸話が記載されている。織田信長とその子信忠を祭る京都の建勲神社は、明治2年の創建の際に織田信長に仕えた家臣の内から36名を選び、その肖像を描いて拝殿に掲げたが、その像を元にして銅版画家の石田有年が描き、建勲神社が刊行したものである。
ながしのかっせん りやつき 長篠合戦略記	なつめ かけい 夏目可敬（1807？-1862）	明治33年（1900）	1冊	多量の鉄砲を使用して武田の騎馬軍を破ったといわれる、長篠の合戦について記した戦記。巻頭には、長篠城郭と城跡の図が載っており、また付図として、織田軍と武田軍の布陣の様子が書かれた「長篠古戦場図」が添えられている。
あわりのくに いぞん おだのぶなが しりょ 尾張国遺存織田信長史料写 う しゃしんしゅう 真集	な ご や おんこかい 名古屋温故会	昭和6年（1931）	1冊	織田信長没後350年を記念して、名古屋温故会が研究調査したものから、尾張にある織田信長に関する史跡・書像・所持品等を57点の写真にまとめた写真集。 各々の写真には、簡単な解説が書かれていて分かりやすい。
おだのぶながこう さんびやくろくしゅうね 織田信長公三百六十年忌記 んき きねん てんらんかい ずろく 念展覧会図録	な ご や しやくしよ 名古屋市役所	昭和17年（1942）	1冊	昭和16年に名古屋市が主催して行った「織田信長公三百六十年忌記念景仰祭」のために集められ展示された信長関係の文書・美術品を写真にまとめた図録。 書状・書像・所持品など合計59点が記載されている。

関連資料リスト

書名	著者（生没年）	刊行年	巻数等	内容
おわりめいしよず え 尾張名所図会 前編	のぐち みちなお おかだ 野口道直(1785-1865)、岡田 けい おだぎり しゅんこう 啓(1781-1860)、小田切春江 (1810-1888)	嘉永4年（1851）	7巻	名勝・古跡・寺院等尾張の名所を絵と文で紹介した地誌。信長に関する名所として、桶狭間古戦場・信長の居城だった那古野城・信長の素行を諷めるため自害した平手政秀を弔った政秀寺などが記載されている。成立は天保15年（1844）。
きんこじつろくしんしよたいこうき 今古実録真書太閤記	くりはら のぶみつ う 栗原信充（1794-1870）、歌 たがわ よしいく 川芳幾(1833-1904)	明治15年（1882）	全36巻の 内、5巻ま で所蔵	豊臣秀吉の活躍を描いた実録物。江戸時代の実録物を出版する『今古実録』という一連のシリーズの第3弾として出版された。その内容の面白さのために多くの人に親しまれた。秀吉の主君である信長の記述も多い。
しんせん たいこうき 新撰太閤記	うたがわ とよのぶ 歌川豊宣（1859-1886）	明治16年（1883）	1枚	太閤記を題材にした錦絵。本能寺の変の後、備中（現在の岡山）から戻った秀吉と京都の山崎で戦い敗走する途中で農兵に竹槍で突かれて傷つき、自刃する明智光秀の姿が描かれている。光秀の隣で辞世の句を受け取っているのは、光秀の家臣の溝尾勝兵衛である。
こくし きょうじゆ しりょう 国史教授資料 第1 - 5輯	な ご や おんこかい 名古屋温故会	大正14-昭和9年 (1925-1934)	5巻合冊	主に尾張を中心として、古跡、事物を写真におさめた写真集である。信長の書像・朱印状などが掲載されている。
びさんせい きょうど しりょう 尾参勢郷土資料	な ご や おんこかい 名古屋温故会	昭和14年（1939）	1冊	城跡、書状、書像など、尾張・三河に存する郷土資料を写真を撮って収録した写真集。

（資料は全て本館所蔵）